

市立中学校区の特性・歴史及び中学校の抱える課題 等

田辺中学校	(令和4年5月1日現在)
校区の地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ● JR京田辺・近鉄新田辺駅を拠点としたエリア ● 同志社大学・同志社女子大学をはじめとする文化学術研究施設が立地し、関西文化学術研究都市の一翼を担うエリア ● 大規模商業施設や金融機関、総合病院といった市民生活の中核となる都市機能が集中し、市役所や中央図書館など公共施設があるエリア ● 甘南備山や普賢寺地区には豊かな資源が多く、また、酬恩庵一休寺や天理山古墳等歴史資源が残っているエリア ● 同志社山手地区・田辺地区では子育て世帯を中心に増加。一方、普賢寺地区では減少傾向
校区の歴史 <small>*「田辺町近代誌」より</small>	<p>明治6年、前年の学制発布を受け、田辺村に小学校（済美館）、山本村（三山木地区）に山本小学校、水取村（普賢寺地区）に水取小学校が設立される。当時は、江戸時代の寺子屋の延長といったものが多く、寺院や民家での運用も散見されたが、この後、旧村単位での「小学校」開校が始まり、小学校の分離統合が行われることとなる。</p> <p>明治22年に町村制が施行され、同年までに田辺村、三山木村、普賢寺村に尋常小学校が発足。ただし、普賢寺村は地形上の問題からそののちも分離統合が見られた。</p> <p>戦後、学校教育法の施行により、6・3制の学校制度が整備され、小学校6年、中学校3年の計9年の義務教育が実現されることとなり、この制度の実施を受け、昭和22年に田辺町・草内村・大住村の1町2村は田辺小学校内に組合立田辺中学校を創設し、三山木村・普賢寺村は普賢寺小学校内に南山中学校を創設した。ただし、同年6月にはこれら2つの中学校が廃止され、新たに5ヶ町村組合立田辺中学校（現在地）が創設され、</p>

	<p>その後、昭和26年に大住村・草内村・三山木村・普賢寺村が廃止され、田辺町に編入統合され、この合併と同時に田辺町立田辺中学校と改称されている。なお、普賢寺の打田・高船地区は地理的に奈良県生駒郡北倭村・高山村と関係が深く、当時、中学生は奈良県側に委託となっており、これは合併後も引き続き委託するという決議がなされ、現在に至っている。</p> <p>昭和50年前後から、戦後2度目の小学生急増期が到来し、校舎建築が追いつかず、プレハブ校舎で学習するケースも多く見られ、昭和55年には、田辺小学校の児童数増に対応するため、薪小学校が新設されている。</p> <p>なお、地理的理由から存続していた打田分校が昭和49年に廃校となり、普賢寺小学校に統合されている。このため、打田・高船の児童は、スクールバスで送迎されることとなった。</p>										
生徒数・学級数の状況	学年		1年生		2年生		3年生		合計		
	生徒数		298		303		305		906		
	学級数		8		8		8		24		
	特別支援学級数		3								
	教職員数		58								
〔参考〕将来推計 *京田辺市子ども人口推計調査（H31.3 時点修正）より	令和8 年度	学年	1年生	2年生	3年生	令和13 年度	学年	1年生	2年生	3年生	
生徒数		386	379	355	生徒数		355	386	441		
学級数		10	10	9	学級数		9	10	12		
施設状況	普通教室数 32（通級指導教室等除く。） 特別教室 22										
項 目	現状と課題										
◆教育環境	<ul style="list-style-type: none">生徒数の増加に伴い、運動場・体育館を使用した授業・部活動に支障が生じている。普通教室が不足することに伴い、少人数対応が困難となる。										

◆施設環境	<ul style="list-style-type: none"> • 地域防災計画において体育館が地域住民の避難所として位置付けられている。 • 北側グラウンドに仮設校舎が設置されており、運動場に一部制限が生じている。 • 今後も生徒増が見込まれ、教室不足が見込まれ、新たな仮設校舎の設置が必要となってくる。 • 令和6年度からの中学校給食開始に向け、配膳室の整備を実施することで教室数が減少する予定
◆通学の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> • 校区が広範であり、自転車通学が認められているが、普賢寺小学校区（打田・高船地区を除く。）から通う生徒の負担は大きい。 • 道路幅が非常に狭い区間がある。現在、自転車通行帯表示が行われている区間もあるが、登下校時間帯は通行量も多く、接触事故等の危険性がある。 • 山手幹線は道路幅が広いが高低差があり、生徒が避けて通学する傾向にある。
◆その他	<ul style="list-style-type: none"> • 田辺中央北地区新市街化構想に基づき生徒数のさらなる増加が見込まれる。

大住中学校	(令和4年5月1日現在)
校区の地域特性	<ul style="list-style-type: none"> ● JR 松井山手駅を拠点として、阪神エリアに直結したエリア ● 農業集落と計画的に整備された住宅地が共生するとともに、市の活性化に資する工業地を備えた地域生活圏エリア ● 京阪東ローズタウンなどの住宅開発が現在も継続しているが、一方で、松井ヶ丘、花住坂、大住ヶ丘地区等は開発から時間が経過し、高齢化が進行している。 ● 田園集落には、歴史資源が多く残っており、豊かな自然環境も存在 ● 大住シンフォニックバンドといった音楽団体による活動が盛んなエリア
校区の歴史 <small>*「田辺町近代誌」より</small>	<p>明治6年、大住村に小学校「進徳館」が開校。校舎建築のために献備金が校区の各村から集められた。この他、個人の寄付も充てられている。また、増改築に備え、維持費についても村の各戸から集めたり、寄付を受けたりしていた。</p> <p>明治22年までに、松井小学校の新築分離、再復帰を経て、進徳校は大住尋常小学校へと改称。</p> <p>戦後、昭和39年に老朽化した校舎が撤去され、さらに京阪東ネオポリス（現松井ヶ丘）の建設に伴う児童増に備え、昭和42年に校舎が増築、昭和54年には、新たに松井ヶ丘小学校が開校し、大住小学校から分離した。</p> <p>また、京都府住宅供給公社による大住ヶ丘団地の開発が行われ、昭和53年から同団地への入居が始まったことから、児童の転入が急増し、大住小学校は校舎を増築し、昭和59年には大住小学校では対応しきれない状況となり、桃園小学校が新設分離し開校することとなった。</p> <p>中学校においては、当該校区の生徒も含め、田辺中学校の生徒が急増したことを受け、昭和54年に大住中学校が新設された。</p>

生徒数・学級数の状況	学年		1 年生		2 年生		3 年生		合計		
	生徒数		246		245		282		773		
	学級数		6		7		8		21		
	特別支援学級数		3								
	教職員数		48								
〔参考〕将来推計 *京田辺市子ども人口推計調査 (H31. 3 時点修正) より	令和 8 年度	学年	1 年生	2 年生	3 年生	令和 13 年度	学年	1 年生	2 年生	3 年生	
		生徒数	178	181	212		生徒数	173	164	172	
		学級数	5	5	6		学級数	5	5	5	
施設状況	普通教室数 24（通級指導教室除く。） 特別教室 22										
項 目	現状と課題										
◆教育環境	<ul style="list-style-type: none">大規模校であり、運動場・体育館を使用した授業・部活動に支障がある。特別支援学級、通級指導教室等の教室確保が難しい。										
◆施設環境	<ul style="list-style-type: none">仮設校舎が設置されている。地域防災計画において体育館が地域住民の避難所として位置付けられている。校舎の老朽化が進行している。										
◆通学の安全確保	<ul style="list-style-type: none">自転車通学は認められていないが、市域西部の山手西地区からは学校まで 2 km 程度あり、保護者から自転車通学の要望も出ている。山手幹線及び周辺道路は通学時間帯の交通量が多い。										
◆その他	<ul style="list-style-type: none">薪小学校区の一部地域において大住中学校へ進学する地域がある。隣接する北部住民センターホールを活用するなど、吹奏楽部や合唱部の活動が盛んである。										

培良中学校		(令和4年5月1日現在)			
校区の地域特性	<ul style="list-style-type: none">● 木津川沿いの豊かな農地を生かしたお茶栽培等が盛んなエリア● 府営団地や興戸駅東側地区では、人口は減少傾向にあり、高齢化が進行● 区の運動会が学校グラウンドを使用して実施されている。また、中部住民センターに体育館が併設されており、バスケットボールをはじめスポーツが盛んに行われているエリア				
校区の歴史 *「田辺町近代誌」より	<p>明治11年、草内・東の両村は、田辺の済美校から分離し、「培良校」を開校した。この培良校は、明治19年に草内・東組合尋常小学校と改称される。</p> <p>戦後、学校教育法が施行し、昭和22年に田辺町・草内村・大住村の1町2村は田辺小学校内に組合立田辺中学校を創設。後、昭和26年に4村が廃止され、田辺町に編入されたことを受け、田辺町立田辺中学校に改称される。</p> <p>昭和44年、当時京都府下最大の府営住宅であった府営住宅田辺団地が、河原神谷に建設され、近鉄京都線以東の人口増に備え、田辺東小学校が本市6番目の学校として昭和47年に開校した。</p> <p>中学校においては、当該校区の生徒も含め、田辺中学校の生徒が急増したことを受け、昭和57年に培良中学校が新設された。</p>				
生徒数・学級数の状況	学年	1年生	2年生	3年生	合計
	生徒数	83	93	88	264
	学級数	3	3	3	9
	特別支援学級数	2			

	教職員数		28							
〔参考〕将来推計 *京田辺市子ども人口推計調査（H31.3 時点修正）より	令和 8 年度	学年	1 年生	2 年生	3 年生	令 和 13 年度	学年	1 年生	2 年生	3 年生
		生徒数	72	76	93		生徒数	85	72	83
		学級数	2	2	3		学級数	3	2	3
施設状況	普通教室数 11（通級指導教室除く。） 特別教室 20									
項 目	現状と課題									
◆教育環境	<ul style="list-style-type: none">生徒数の減少に伴い、部活動等に影響が生じている。（野球部の休部 等）生徒一人ひとりに指導が行き届きやすい。I C Tを活用した取組を積極的に実施している。									
◆施設環境	<ul style="list-style-type: none">生徒数減少に伴い、余剰教室が発生している。地域防災計画において体育館が地域住民の避難所として位置付けられている。（風水害を除く。）校舎の老朽化が進行している。学校敷地内に武道場が設置されている（グラウンド・体育館同様に地域団体等への施設開放を実施している。）。 									
◆通学の安全確保	<ul style="list-style-type: none">学校から遠方の地域では自転車通学が認められている。国道 307 号の交通量が多い。また、通学時間帯における大型車両の通行も多い。									
◆その他	<ul style="list-style-type: none">総合的な学習の時間を利用し、地域の特産であるお茶について学んでいる。									

[参考] 京田辺市の変遷

区分	明治7年2月		明治9年7月	明治22年4月	明治39年10月	昭和26年4月	平成9年4月		
綴喜郡	田 辺 村	田 辺 村		田 辺 村	田 辺 町	田 辺 町	京 田 辺 市		
	田辺新田村								
	北 興 戸 村	興 戸 村						大 住 村	
	南 興 戸 村								
	薪	村							(久世郡へ)
	河	原	村						
	大	住	村						
	松	井	村						
	水	主	村						
	東	村		草 内 村					
	草	内	村						
	飯	岡	村						
	宮 ノ 口 村	宮 津 村		三 山 木 村					
	江 津 村								
	山 本 村	三山木村							
	南 山 村								
	出 垣 内 村								
	高 木 村								
	天	王	村	普 賢 寺 村					
	高	船	村						
	打	田	村						
	水	取	村						
	上	村							
	多 々 羅	村							

資料: 田辺町史ほか